

平成18年度 病虫害発生予察 特殊報 第2号

病虫害名： アワダチソウゲンバイ
Corythucha marmorata (Uhler)

対 象： ヒマワリ，ルドベキア，ミヤコワスレ，宿根アスター，シオン

1. 特殊報の内容

アワダチソウゲンバイによる被害と分布を都下で初めて確認した。

2. 発生経過

- (1) 本種は北米原産の侵入害虫である。我が国では2000年4月に西宮市で最初に確認され、その後分布が拡大し、2006年までに、大阪府、滋賀県、奈良県、三重県、京都府、徳島県、岐阜県、愛知県、香川県、岡山県、鳥取県、高知県、静岡県で確認されている。
- (2) 東京西部に位置する立川市の南部、多摩川の河川敷周辺において、2006年8月頃からセイタカアワダチソウの葉が黄化する症状が発生していた(第1図)。9月5日に調査したところ、多数のゲンバウムシ成虫・幼虫の発生を確認した。周辺でルドベキア、オオブタクサ、オオアレチノギクへの寄生も確認した。
- (3) 多摩川から1kmほど北に位置する農林総合研究センター敷地内に植栽されているヒマワリ(大輪系)、圃場内のオオアレチノギク、および周辺住宅地の花壇に植栽されているヒマワリ(大輪系)、ミヤコワスレ、宿根アスター、シオンでの発生を確認した。また、国立市でも生息が確認され、既に広範囲に分布している可能性が高い。ナス、カンショでの被害は確認していない。
- (4) 立川市で採集した幼虫・成虫の写真を横浜植物防疫所業務部、時広五朗氏に送付したところ標記と同定された。

3. 形態 (第2,3,4図 成虫・幼虫・卵)

- (1) 成虫の体長は約3mmで、背面には不定形の茶色の斑紋がある。
- (2) 幼虫の体長は約1.8mmである。体色は黄褐色で翅芽の基部や腹部の基部がやや暗色となる。
- (3) 卵は葉脈付近に産卵され、産卵部位は黒化する。

4. 生態

- (1) 大阪府病虫害防除所によれば、成虫の発生ピークは7月下旬と8月下旬、幼虫のピークは8月上旬と下旬にみられる。成虫で越冬する。

5. 被害 (第1・5・6図)

- (1) 成虫・幼虫とも葉裏に寄生し、幼虫は集団で吸汁する。吸汁により葉表に脱色斑点を生じ、葉裏は排泄物で汚れ、加害が進行すると黄変する。

6. 防除対策および注意

- (1) 現在、本種に対する農薬登録はない。防除所または普及センターに連絡する。

(2) ヒレガオ科のカンショやキク科のヒマワリやキクでの被害が懸念されるため、発生源となる圃場付近のセイタカアワダチソウなどのキク科雑草を除草する。

7. 参考文献： 横浜植物防疫所（2005）病害虫情報 No.77:4-5.

8. 図：第1～6図



第1図 セイタカアワダチソウの被害状況（2006年9月5日）



第2図 成虫



第3図 幼虫



第4図 卵（葉裏の葉脈沿い）



第5図 ヒマワリの被害（葉表）



第6図 ヒマワリの被害（葉裏）